

## WAC2019 報告③

理化学研究所生命医科学研究センター  
岡田峰陽

2019年12月12～14日に、フランスのリヨン市で開催された World Allergy Congress (WAC) 2019に参加させて頂きました。この大会における日本アレルギー学会の Sister Society Symposium にて講演させて頂くこととなり、せっかくなので3日間すべて参加させて頂きました。WACに参加するのは初めてでしたが、大会全体を通して、アレルギー関連疾患の臨床研究のご発表を多数聞く事が出来ました。その内容についても興味深いものが多かったのですが、それに加えて、特にメインホールでの登壇者には、発表のスタイルが非常に印象的な方が多くおられました。私がこれまで参加した他の国際学会と比べても、聴衆を惹きつける熱量のこもった話し方をされる方が多く、内容だけでなく発表スキルについても、非常に勉強になりました。日本アレルギー学会の Sister Society Symposium は、大会最終日の土曜ということもあり、他の日と比べると聴衆は若干少なめでしたが、一緒に講演をさせて頂いた千葉大学の倉島先生と鳥取大学の杉田先生の素晴らしいご発表や、また座長をして下さった World Allergy Organization (WAO) 前理事長の Ansotegui 先生と WAO 現理事長の海老澤先生のリーダーシップもあり、ご出席下さった方々は活発に議論にご参加下さいました。この Sister Society Symposium は、他のセッションに比べると基礎研究色が強く、食物アレルギーやアトピー性皮膚炎の新しいメカニズムや治療ターゲットについて議論したい、という意図が現れたセッションになったのではないかと思います。最後になりましたが、このような貴重な機会を与えて下さいました日本アレルギー学会の先生方、事務局の方々に深くお礼を申し上げます。

---